

第7回諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会 議 事 概 要

開催方法

書面による意見照会として開催

意見照会の期間

令和2年3月11日（水）～3月23日（月）

会議事項

諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方（案）について

委員からの意見

別添のとおり

委員からの意見

1 センターの名称について

前回の第6回検討会では、水環境の研究を主体として行うのであれば、そうしたことがわかるようなセンター名を検討すべきであり、例えば「諏訪湖水環境研究センター」などのほうがわかりやすいのではないかとのご意見をいただいたところです。

センターの名称についてご意見等があれば、お聞かせ願います。

委員	意見の内容
今井委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「意見」諏訪湖水環境研究センターとすると、「諏訪湖」と「水環境」がダブルように思われる。 2 将来に向けて、湖沼や湖沼流域において様々な環境問題が生起する可能性が高い。よって、当該問題に迅速に対処できるように、センター名称は広めの方が適切と判断する。すなわち、「水環境」よりも「環境」が良いと思う。
沖野委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 諏訪（湖）水環境研究センター。 （湖）が入っても入らなくても良いが、研究対象が諏訪湖だけではないことが分かるような名称が好ましい。
小口委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 センター名称は水環境の研究が主体ということなので、「諏訪湖水環境研究センター」でよい。 2 合わせて県民・市民の関心を集めるため、愛称・ニックネームを公募してはどうか。正式名称は堅苦しさを感ずる。センターに対して親しみがわき、身近に感じられるような愛称をつけ、日常は愛称で呼ぶようにしたらどうか。ネーミングライツを募集してもよい。
傳田委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 諏訪湖水環境研究センターの方が、水環境に特化している印象を与え、地域の方にわかり易いと思う。
宮原委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境には水も含まれているし、集水域や生態系を対象として扱いにくくなるため、水は不要と思う。 2 霞ヶ浦も琵琶湖も環境“科学”となっており、科学が入っても良いと思う。また、研究だけでなく、学び・情報発信の場でもあるので、“研究”センターより、幅広い意味を持たせた方が良いかもしれない。
百瀬委員 (岡谷市)	<ol style="list-style-type: none"> 1 正式名称はどちらでも良いと思うが、いずれにしても硬いイメージになる。最終的には公募で愛称を募集し、親しみやすい名称にし、そちらを定着させてはどうか。
花岡委員 (諏訪市)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「諏訪湖水環境研究センター」の方がわかりやすい。名称に「水」が入ることで目的が理解しやすい。また、愛称なども公募し親しみのある施設としたい。
増澤委員 (下諏訪町)	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設の目的については、「研究機能」、「情報発信」、「学び」、「ネットワーク」となる。地域住民を含む県民が分かりやすく、親しみのある名称を望む。

<p>仙波委員 (環境保全研 究所)</p>	<p>1 現状の「諏訪湖環境研究センター」のままでよい。</p> <p>諏訪湖の環境と言えば通常は「水環境」をイメージするので、水環境に特化した研究ををするとしても、あえて名称に明記する必要はない。</p> <p>また、将来的には、ヒシのたい肥化等の地域循環圏の形成など資源循環の分野にセンターが関わることも想定されるため、現状のままでよい。</p> <p>一方で、センターは研究以外の業務も行うため、研究機関という堅苦しい印象を与えず、住民への親しみやすさを重視する場合は、「諏訪湖環境センター」とするのも一案ではないか。</p>
--------------------------------	--

2 重点的に取り組む研究について

当センターの機能については、研究機能に重点を置き、行政機関が設置する研究機関としては、単なる研究にとどまらず、研究成果を行政の具体的施策につなげていきたいと考えております。

直面する課題への対応といった面では、貧酸素の発生メカニズムや水草など生態系の変動要因の解明、あるいはマイクロプラスチックが河川・湖沼に与える影響等の研究に重点的に取り組むべきと考えているところですが、重点研究分野についてご意見等があれば、お聞かせ願います。

委員	意見の内容
今井委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「重点研究分野 (テーマ)」は、長野県が研究予算を十分に供給するのであれば、県行政的に重要な研究テーマ (貧酸素、水草、マイクロプラスチック等) を選定すれば良いと思う。重点研究テーマは3年～5年で変わってゆくことに留意。短期的な研究テーマと言える。 2 「基盤的研究分野 (テーマ)」が必要である。県民 (・国民) の要望に応えるテーマである「重点研究分野 (テーマ)」とは別もの。こちらは長期的な展望に立ったものになると想定する。数十年～50年、じっくりと落ち着いて、メカニズム解明、技術・ツール開発、および湖沼モデル開発等の基盤的・基礎的な研究を実施する。この分野がないと研究所の体を成さない。
沖野委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎研究ではあっても地方自治体の研究機関として位置づけであるから、研究成果を行政の具体的な施策につなげる意識での研究方針に賛成。 2 生態系影響などの基礎研究は大学、国の研究機関の課題であるため、当研究センターでは対応は困難であり、マイクロプラスチックに関する研究は現状調査的な調査が良い。 3 所長、研究員の専門、研究歴が不明な段階では適切な課題選定は行えないため、当面の研究課題設定については、これまでの検討委員会に提出された課題を資料として、具体的な取り組みは担当する所長、研究委員が決定すべきである。
傳田委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 流域からの流出・物質輸送 → 栄養塩類の流出・滞留：貧酸素の発生メカニズム → 生態系の変動 (ワカサギの大量死等) の統合化研究もあるとよいと思う。社会で生じている問題は個々の現象の組み合わせで起こっているものなので、施策検討にも重要な役割を持つと思う。
宮原委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究と調査 (業務) の仕分けが必要。研究は、①環境基準値 (栄養塩、DO、透明度) の変動のしくみを解明するもの、②漁獲の維持など生態系やその生産性に関わるものが、行政課題と密接なテーマと思う。調査 (業務) は、前記の基礎データの収集である。 2 2019年度の事業を発展させたAI解析による貧酸素の予想精度の

	<p>向上も、重要な研究テーマと思う。この精度向上に必要な観測は業務的に行うべき。</p>
<p>百瀬委員 (岡谷市)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 直面する課題への対応は重要であるが、当研究センターの位置づけを考えると、諏訪湖また他の県内湖沼をどのようにしたいのか、そのためにはどのようなことが必要なのか、という点が重要になってくる。 2 長野県が目指す水環境像、そこに至る道筋をはっきりさせ、そのためにどんな研究をする必要があるのかを示せば、おのずから必要な研究テーマが決まるのではないか。 3 研究者が水環境に関する研究を自由に行うことが出来るセンターというコンセプトでないならば、研究は目的に至るための手段であり、目的そのものではない、という視点に立って考えるのが良いと思う。
<p>花岡委員 (諏訪市)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 通常の水質調査の他、諏訪湖の課題に対する研究そして、公表、周知が必要と感じる。 2 流域住民に対して必要に応じて研究結果から対策を講じることがあれば市町村が連携して取組むようにしたい。
<p>増澤委員 (下諏訪町)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 諏訪湖を取り巻く地域住民からは、「昔に比べて諏訪湖は綺麗になった」との声をいただくが、春から秋にかけてのヒシの繁茂に対する苦情が圧倒的に多い状況である。漁協との兼ね合いもあるが、目に映る成果を住民は望んでいると感じる。

3 学び、連携の範囲について

研究については、諏訪湖に限らず県内の河川・湖沼を対象とすることを考えておりますが、学びについては、前回の第6回検討会では、当センターでは県全体の河川や湖沼を学べるというよりは、諏訪湖のことを学べるということのほうが素直ではないかとのご意見をいただいております。

学びに関しては、県内全域を対象とするよりは諏訪湖について深く学べることのほうがよいのか、また、学生やボランティア団体等から構成する市民研究会（仮称）を設置するにあたり、当組織は、県内全域を対象とすべきか、諏訪湖に限ったものとすべきかといったこと等についてご意見等があれば、お聞かせ願います。

委員	意見の内容
今井委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 現時点では、「学び」は「諏訪湖」に限定することが適切だと思う。数年後（3年位、当該研究センターの中期計画終了時）に見直せば良いと思う。この数年を使って、長野県環境保全研究所等との他に「学び」を実施している機関との擦り合わせを行い、最も適切な形を、役割分担を含めて、つくることが妥当であろう。 「学び」の拠点が「研究」の拠点とイコールである必要はあるだろうか。「学び」を実施されている方々の意見が聞いた方が良いかもしれない。 「研究」と「学び」の連携はどのような形になるのだろうか。
沖野委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 諏訪湖の保全が中心課題であるから、学びについては、集水域を含めた諏訪湖集水域生態系に関する課題を中心にせずには取り組むことが必要と考える。 しかし、質問、要望があれば県全域の水環境についても対応できるように視野を広げておく柔軟性がほしい。設立の趣旨に長野県全体の水環境にも対応できるセンターとして位置づけられている。 学びの場としての市民研究員態勢については設立後に所長、研究員、センター関係者があらためて検討し、具体的に立案、設置すべき事項と考える
小口委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> センターの設立目的が「諏訪湖を中心に、県内河川、湖沼の水環境保全」であるため、県内の河川、湖沼を対象とすることでよい。 市民研究会は、発足当初は地域を絞って諏訪湖周辺からの募集、参画でよいが、センターの研究テーマのニーズに合わせて拡大、分科会の設置等を行い、他地域からの参画も受け入れるとよい。他地域との人事交流や情報交換は、センターの重要な役割だと考える。
傳田委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none"> 端的な回答としては、諏訪湖を中心に据えるほうが良いと思う。 しかし、諏訪湖以外にも高地に良い湖沼環境がある長野県だから、類似の湖沼環境も長野県にあることを伝え、個々の湖沼環境（水環境）については、フィールドワークを行っている研究者にリンクできる学びの連携を企画したらどうか。HUB機能の実現に近づくとと思う。

	<p>2 諏訪湖を湖沼に興味を持ってもらう契機とし、琵琶湖・霞ヶ浦等、日本の特徴ある湖沼に興味を誘うような学び・連携の広がりを持つ展示等はどうか。長野県以外の湖沼の学習を通じて、長野県の湖沼の独自性が理解され、長野県の湖沼の個性と貴重さを伝える学びにつながるとよいと思う。</p>
<p>宮原委員 (有識者)</p>	<p>1 当該センターで学べることは、諏訪湖に関することが主で良いと思うが、県内の環境学習ができる施設(河川・湖)と連携できるような体制とした方が良いと思う。現場を目の前にしたセンターならではの学びが重要。(ここでしかできないことにこだわる。)</p> <p>2 市民研究会は全県民を対象にすべきと思う。研究会の運営も、他の施設との連携を考えてみてはいかがか。限られた人たちだけの組織にならないように。河川・湖沼・生き物に関心がある方々(初心者からセミプロ)に開かれ、互いに学び合うような研究会が理想。</p>
<p>百瀬委員 (岡谷市)</p>	<p>1 現計画の学びのスペース面積では、計画している全ての機能は入りきらない。面積が確保できないのであれば、検討会で提案があったように、他の施設の展示物、蔵書などを活用させていただくなど、限られたスペースを最大限に生かせる工夫が必要になるのではないか。</p> <p>2 諏訪湖を学ぶことに重きをおくことは良いが、「市民研究会はセンター運営のどの部分まで関わるのか」によって状況が異なる。市民研究会が、学びに関する部分だけ関わるというならば、諏訪湖に関する学習に限定し、近隣の方々に市民研究会として参画いただければ良いが、研究まで含めた全般に関わるのであれば、広域的に考えるべきと思う。また、連携という観点から考えると、地域や分野の異なる様々な意見を取り入れていくことが大切だと思うので、エリアを絞るのは如何なものかと思う。「市民研究会」をセンターに持たせる目的、係わり方が曖昧な状態では判断のしようがないので、長野県のコネクト・基本的な考え方を示し、これに対して委員から意見をいただく方が良いのではないか。</p>
<p>花岡委員 (諏訪市)</p>	<p>1 研究については諏訪湖に関することが主として、比較対象として県内の湖沼、河川としてはどうか。</p>
<p>増澤委員 (下諏訪町)</p>	<p>1 まずは諏訪湖に特化した学び・連携とし、徐々に県内の河川、湖沼に広がっていけばと思う。連携の範囲については、湖周市町の施設((例)下諏訪町:諏訪湖博物館)の有効活用及び周辺小中高大学校を巻き込んだ学習、連携を望む。</p>
<p>小野沢委員 (諏訪地域振興局)</p>	<p>1 学びや市民研究会の設置に当たっては諏訪湖を対象としたほうがよいと考える。学びの場は学ぶ対象となるフィールドが近くにあるこそ実感として受け止め、思考することができるものと考えている。市民研究会の設立も同様であるが、実効性ある学び・連携を進めていくには全県対象とするよりもまずは諏訪湖を対象としていく方が良いのではないか。</p>

仙波委員 (環境保全研 究所)	1 学びや市民研究会の対象は、まずは諏訪湖についてのみ取り組むべき。最初は手を広げすぎずに諏訪湖を対象に実績を作り、その成果を徐々に県内全域へ広げていくことを検討すべきである。
-----------------------	--

4 その他

今回お送りした諏訪湖環境研究センターのあり方（案）に関して、その他修正すべき箇所について、ご意見等をお願いします。

委員	意見の内容
今井委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none">1 今回の当該案は、どちらかと言うと、概念的な案と考えられる。その観点からは良く纏まっていると思う。2 「諏訪湖環境研究センター」設立に係る「ロードマップ」のような今後の進展に係る時刻表のものがあれば、良かったと思う。長野県民に、当該センターに係る時間的な展望が予期できるように。
沖野委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none">1 当センターは当初から長野県の内部機関としての位置付けで議論がされてきたが、長期的に継続可能な研究センターを目標とするならば、県の組織から距離を置いた外部法人団体として位置づけることも可能ではないだろうか。
傳田委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none">1 水環境に関わる研究者・実務者・市民団体を中心としつつも、諏訪湖に関わる方が集える space になるとよいと思う。コワーキングスペース・イベントスペース等を設置し、諏訪湖周辺域の様々な人が集える space へ発展するとよいと思う。
宮原委員 (有識者)	<ol style="list-style-type: none">1 当該センターから発信する情報には、湖の基礎データ（業務）、その解析結果（研究）だけでなく、それらに基づいた県の事業（浅場造成などの対策事業）の目的や成果もあつた方がよいと思う。2 信大の諏訪臨湖実験所（5階建て、教職員3名＋学生）の床面積は約1,500m²である。（うち宿泊施設は約3割。）施設の規模の参考にさせていただければと思う。
花岡委員 (諏訪市)	<ol style="list-style-type: none">1 流域市町村のホームページと諏訪湖水環境研究センターを何らかの形でリンクしたい。
増澤委員 (下諏訪町)	<ol style="list-style-type: none">1 4頁：「地域に根差し住民の学びを幅広く支援する」等。 諏訪湖周辺市町の施設有効活用など、今後、市町との調整は必要かと思うが、発信拠点施設の分所化も検討いただきたい。